

日本社会文学会関東甲信越ブロック7月例会

イスラエル／パレスチナ問題と東アジア

鵜飼哲氏

「アジア・アフリカ作家会議のレガシーと パレスチナ(へ)の想像力」

2026年2月28日にアメリカとイスラエルがイランへの大規模攻撃を開始、子どもを含む多数の犠牲者をだした挙句に、ようやく6月、米イラン間の停戦合意が結ばれようとしています。一方、2023年10月7日のハマスによるイスラエル越境攻撃以降、イスラエルはアメリカの支援を得て、パレスチナのカザおよびヨルダン川西岸で虐殺を繰り返してきました。その死者は7万人以上とされています。

帝国の暴力による中東の混乱は、東アジアにおける「帝国」の暴力を思い出させます。この混迷の原因や影響を理解するために、日本社会文学会関東甲信越ブロック例会（共催：明治学院大学国際平和研究所）では、パレスチナ問題について精力的な発信を続けておられる哲学者の鵜飼哲氏をお招きし、「アジア・アフリカ作家会議のレガシーとパレスチナ（へ）の想像力」の題でご講演いただくことにいたしました。入場無料です。どうかふるってご参加ください。

（コーディネーター：竹内栄美子）



日時：2026年7月11日（土）15:30～17:30 （開場 15:00）

場所：明治学院大学白金キャンパス 2号館 2303 教室

日本社会文学会関東甲信越ブロック、明治学院大学国際平和研究所共催
詳細、申し込み等については日本社会文学会 HP もご参照ください。

<https://ajsl.web.fc2.com/meeting-next.html>